



平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月8日

上場会社名 新田ゼラチン株式会社
 コード番号 4977 URL <http://www.nitta-gelatin.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾形 浩一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 総務部担当 (氏名) 玉岡 徹

TEL 072-949-5381

四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	28,266	4.3	848	36.9	998	39.6	528	20.1
29年3月期第3四半期	27,100	2.6	1,343	47.9	1,652	97.6	661	63.7

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 1,141百万円 (19.5%) 29年3月期第3四半期 954百万円 (56.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	28.77	
29年3月期第3四半期	36.02	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	40,771	18,673	40.8
29年3月期	40,410	17,736	38.9

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 16,633百万円 29年3月期 15,727百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		6.00		6.00	12.00
30年3月期		6.00			
30年3月期(予想)				6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,400	2.3	1,100	32.0	1,000	45.4	600	13.5	32.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成30年2月8日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 有
修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P. 8「2.四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計上の見積りの変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期3Q	18,373,974 株	29年3月期	18,373,974 株
----------	--------------	--------	--------------

期末自己株式数

30年3月期3Q	162 株	29年3月期	162 株
----------	-------	--------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

30年3月期3Q	18,373,812 株	29年3月期3Q	18,373,812 株
----------	--------------	----------	--------------

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当期の経営成績

当第3四半期連結累計期間においては、米国をはじめ中国、インド等の経済が堅調に推移するなど、世界経済全体で緩やかな景気拡大が続きました。日本経済においては、世界景気の好調を背景に半導体特需や自動化投資等が加わり、緩やかな回復基調が続きました。

当社グループは平成30年に創業100年を迎えました。今後の更なる成長を目指し、新たなコーポレートビジョンを制定しました。

(新ビジョン)

「いつまでも元気で若々しくありたい」

そんな世界中の人々の願いを、コラーゲンの飽くなき追求により叶えます。

1. お客様の「もっと」を叶える製品・サービスを提供します。
2. 研究開発と生産革新に努め、コラーゲンの活躍の場を広げます。
3. 挑戦を良しとする組織風土を築き、新たな市場を開拓・創造します。

このコーポレートビジョンのもと、新しい価値を創造する製品の提供、健康・美容や再生医療分野の研究開発、新たな製造方法の探究や最適生産・最適販売による競争力強化に努めました。

この結果、売上高は28,266百万円（前年同期比4.3%増加）となりましたが、北米でのゼラチン原料価格の上昇等により、営業利益は848百万円（前年同期比36.9%減少）、経常利益は998百万円（前年同期比39.6%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は528百万円（前年同期比20.1%減少）となりました。

② セグメント別の概況

(コラーゲン素材事業)

ゼラチンは、日本ではコンビニ総菜用などの食用、サプリメント向けソフトカプセル用が継続して堅調に推移しました。北米では、原料価格の高止まりにより、利益が減少しました。

コラーゲンペプチドは、日本ではその機能性の認知度向上が継続し、サプリメント市場での販売が引き続き堅調でした。中国では、これまでの販売促進活動等が成果に結びつき、販売が好調に推移しました。

コラーゲンケーシングは、北米での販売が引き続き堅調である上、生産性の向上により利益が増加しました。

この結果、当該事業の売上高は20,722百万円（前年同期比5.0%増加）、セグメント利益は1,064百万円（前年同期比31.2%減少）となりました。

(フォーミュラソリューション事業)

食品材料は、売上高は前年を上回りましたが、販売管理費等の増加により利益は減少しました。また、平成29年11月、新食感を求めるTV番組から当社の技術開発力に興味をいただき、研究開発員が出演しました。当社の技術力を発揮し、テーマに合致した新食感のチルドデザートを製作して、好評価を得ました。今後も顧客ニーズを的確に捉えた製品開発を行い、積極的に顧客提案してまいります。

接着剤は、衛生材料用の販売が引き続き堅調に推移し、売上高は前年並みでしたが、生産性の向上により利益は増加しました。

この結果、当該事業の売上高は7,544百万円（前年同期比2.6%増加）、セグメント利益は812百万円（前年同期比2.3%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末比360百万円増加の40,771百万円となりました。主な要因は、商品及び製品、投資有価証券等が増加したことによるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末比577百万円減少の22,097百万円となりました。主な要因は、未払法人税等、長期借入金等が減少したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末比937百万円増加の18,673百万円となりました。主な要因は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金等が増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は40.8%（前連結会計年度末38.9%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の連結業績予想は、平成29年5月10日に公表しました「平成29年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載した連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日（平成30年2月8日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,662	1,559
受取手形及び売掛金	8,923	9,391
商品及び製品	5,043	5,570
仕掛品	1,163	1,176
原材料及び貯蔵品	2,997	3,039
その他	918	909
貸倒引当金	△22	△13
流動資産合計	21,686	21,633
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,339	4,184
機械装置及び運搬具(純額)	4,882	4,952
その他(純額)	4,688	4,649
有形固定資産合計	13,910	13,786
無形固定資産		
のれん	454	423
その他	405	402
無形固定資産合計	859	825
投資その他の資産		
投資有価証券	3,052	3,572
その他	902	954
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	3,954	4,526
固定資産合計	18,724	19,137
資産合計	40,410	40,771

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,347	4,268
短期借入金	2,866	2,953
1年内返済予定の長期借入金	2,432	2,566
未払法人税等	509	131
賞与引当金	259	149
その他	2,622	2,627
流動負債合計	13,037	12,696
固定負債		
長期借入金	5,425	5,131
退職給付に係る負債	2,851	2,870
その他	1,359	1,399
固定負債合計	9,636	9,401
負債合計	22,674	22,097
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,144	3,144
資本剰余金	2,966	2,966
利益剰余金	10,042	10,393
自己株式	△0	△0
株主資本合計	16,153	16,505
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,107	1,464
繰延ヘッジ損益	43	6
為替換算調整勘定	331	502
退職給付に係る調整累計額	△1,907	△1,844
その他の包括利益累計額合計	△426	128
非支配株主持分	2,009	2,040
純資産合計	17,736	18,673
負債純資産合計	40,410	40,771

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	27,100	28,266
売上原価	20,869	22,472
売上総利益	6,230	5,794
販売費及び一般管理費	4,886	4,946
営業利益	1,343	848
営業外収益		
受取利息	17	9
受取配当金	31	45
為替差益	275	93
持分法による投資利益	112	124
その他	70	56
営業外収益合計	507	328
営業外費用		
支払利息	177	156
その他	20	21
営業外費用合計	198	177
経常利益	1,652	998
特別損失		
固定資産売却損	—	1
固定資産除却損	346	10
特別損失合計	346	12
税金等調整前四半期純利益	1,305	986
法人税等	570	392
四半期純利益	735	593
非支配株主に帰属する四半期純利益	73	65
親会社株主に帰属する四半期純利益	661	528

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	735	593
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	100	357
繰延ヘッジ損益	95	△70
為替換算調整勘定	113	184
退職給付に係る調整額	66	64
持分法適用会社に対する持分相当額	△157	11
その他の包括利益合計	219	547
四半期包括利益	954	1,141
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	878	1,082
非支配株主に係る四半期包括利益	76	58

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数の変更)

一部の連結子会社が保有する機械装置は、従来、使用実態を勘案し耐用年数を8年として減価償却を行ってきましたが、当連結会計年度に新規機械装置の稼働予定を契機に、実際の使用年数などを見直した結果、従来の耐用年数よりも長期間使用する見込であることが明らかとなったため、第1四半期連結会計期間より耐用年数を10年に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の減価償却費が33百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が同額増加しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	コラーゲン 素材事業	フォーミュラ ソリューション 事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	19,744	7,355	27,100	—	27,100
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,396	7	1,403	△1,403	—
計	21,141	7,362	28,503	△1,403	27,100
セグメント利益	1,548	794	2,343	△999	1,343

(注) 1. セグメント利益の調整額△999百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,005百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「コラーゲン素材事業」セグメントにおいて、ヴァイスゼラチン, LLCを新たに設立し、新設会社がVyse Gelatin Companyの事業の一部を譲り受けたことにより、のれんを計上しております。

当該事象による増加額は、当第3四半期連結累計期間において、379百万円であります。なお、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	コラーゲン 素材事業	フォーミュラ ソリューション 事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	20,722	7,544	28,266	—	28,266
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,515	5	1,521	△1,521	—
計	22,238	7,550	29,788	△1,521	28,266
セグメント利益	1,064	812	1,877	△1,029	848

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,029百万円には、セグメント間取引消去10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,040百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。